

読 響

YOMIKYO
Yrs.
1962-2022

打楽器が打ち鳴らされ、
金管楽器が咆哮し、
会場は興奮の坩堝へ！

衝撃のショスタコーヴィチ

ALEJO
PÉREZ Conductor

ウィーン国立歌劇場などで
活躍し、注目を浴びる気鋭

アレホ・ペレス 指揮

©Karim Khawatmi



7.22 Fri

読売日本交響楽団 第619回 定期演奏会
Subscription Concert No. 619

2022年7月22日(金) 19:00

サントリーホール

Friday, 22 July, 2022, 19:00 / Suntory Hall

S ¥7,600 A ¥6,600

B ¥5,600 C ¥4,100

読響チケットセンター

0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、
読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：文部科学省
文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

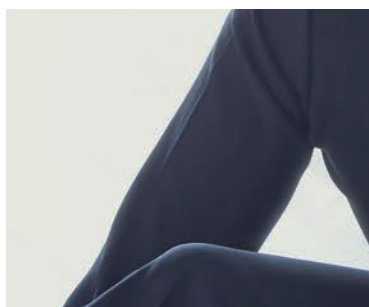
協力：アフラック生命保険株式会社

SUWANAI
AKIKO Violin

世界の檜舞台で活躍する
日本を代表するアーティスト

諏訪内 晶子 ヴァイオリン

©Takaki Kumada



エトヴェシュ：セイレーンの歌 (日本初演)

EÖTVÖS: Sirens' Song (Japan Premiere)

メンデルスゾーン：ヴァイオリンとピアノのための協奏曲 二短調

MENDELSSOHN: Concerto for Violin and Piano in D minor (full orchestra version)

ショスタコーヴィチ：

交響曲 第12番 二短調 作品112 「1917年」

SHOSTAKOVICH: Symphony No. 12 in D minor, op. 112 "The Year of 1917"



EVGENI Piano
BOZHANOV

アルゲリッチも絶賛！
強烈な個性を持つ異才

エフゲニ・ボジャノフ ピアノ

©Marco Borggreve

革命の夜明けに 希望は灯るのか？

気鋭ペレスが振る

衝撃のショスタコーヴィチ！

諏訪内晶子とボジャノフが

メンデルスゾーンで白熱の共演



指揮 アレホ・ペレス

欧州で頭角を現すアルゼンチンの鬼才。ギレーンらに師事し、エトヴェシュのアシスタントを務めた。15年ザルツブルク音楽祭にデビュー、翌年に同音楽祭でウィーン・フィルと初共演。2019年から欧州オペラ界の最先端の劇場として注目を浴びるベルギー王立フランダース歌劇場の音楽監督を務めている。ベルリン・ドイツ響、フィルハーモニア管、スイス・ロマン管などの楽団に客演。ドレスデン国立歌劇場、ハンブルク国立歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場、ローマ歌劇場などで活躍。今年4月にウィーン国立歌劇場にデビューし成功を収め、11月にも再登場する。18年東京二期会「魔弾の射手」で読響と共演し、好評を博した。

ザルツブルク音楽祭など欧州で活躍する指揮者アレホ・ペレスが登場。ショスタコーヴィチの衝撃作を振り、メンデルスゾーンの協奏曲で俊英ソリストたちと共演、さらにエトヴェシュの新作を本邦初披露する。国内外でメキメキと頭角を現す注目目は、意欲的なプログラムで強烈な《定期演奏会》デビューを果たすに違いない。

ショスタコーヴィチの交響曲第12番「1917年」は、「革命」という人間社会の壮大なテーマをもとに豊富な音楽的内容を敷き詰めた一曲。1960年、ショスタコーヴィチは周囲の圧力により共産党に入党せざるを得なくなる。翌年、レーニンのロシア革命を讃える本作を書き上げるが、時代への迎合と反抗を繰り返した作曲家の真意は謎に包まれている。革命の物語は、荒々しい筆致ながら起伏に富んだ展開で描かれる。冒頭から打楽器が打ち鳴らされて爆発を繰り返す一方、一糸乱れぬ弦楽器が緊張感を孕んだサウンドを生み出す。終楽章「人類の夜明け」のファンファーレでは、金管楽器が咆哮し会場を興奮の坩堝へと巻き込むだろう。ローマ歌劇場などで度々ショスタコーヴィチ作品を取り上げて絶賛されるペレスは、「1917年」ではどのようなドラマを生み出すのか。オペラ指揮者として華々しい実績を重ねる鬼才が、切れ味鋭いタクトでオーケストラを巧みにドライブさせ、推進力抜群の音楽を作り上げるだろう。

前半は、世界的ヴァイオリニストの諏訪内晶子と名手エフゲニ・ボジャノフが登場し、メンデルスゾーンの隠れた名曲に光を当てる。今回、諏訪内自らボジャノフとの共演を望み、本作の披露が実現した。ヴァイオリンとピアノの技巧が惜しみなく繰り広げられ、諏訪内の繊細な表現力とボジャノフの圧倒的な個性が息もつかせぬ熟演を繰り広げるだろう。手に汗握る二人のソロをご堪能いただきたい。

冒頭は、エトヴェシュの「セイレーンの歌」で幕を開ける。ペレスにとっては作曲の師であり、欧州では作曲家のオペラ作品の初演を数々手掛けてきたほどつながりの深い存在だ。昨年3月、コロナ禍によりやく日の目を浴びたばかりの新作に、新たな生命が吹き込まれるだろう。現代作品に精通するペレスの真価が発揮される。



©Kyotaka Saito

ヴァイオリン 諏訪内晶子

世界各地で活躍する国際派ヴァイオリニスト。1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでにサヴァリッシュ、スクロヴァチエフスキ、マゼール、メータ、グルゲエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。幅広いレパートリーを持ち、近現代作品の演奏にも定評がある。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のグアルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。



©Marco Borggreve

ピアノ エフゲニ・ボジャノフ

独創性を持ち、強烈な個性を放つブルガリアの異才。リヒテル国際コンクール優勝。10年エリザベート王妃国際コンクール第2位、同年ショパン国際コンクール第4位入賞し、アレグリッチから唯一賞賛の拍手を贈られて一躍注目を浴びた。ヴァルチュハ、ソビエフ、ルスティオーニら名匠の指揮で、ベルリン・ドイツ響、スウェーデン放送響、RAI国立響、ラハティ響、サンタ・チェチーリア管などの名門楽団と共演。ワルシャワのショパン・フェスティバルに度々招かれるほか、ベルリン・フィルハーモニーホール、ウィーン楽友協会など世界の主要ホールで演奏。 Folkwang 芸術大学教授。読響初登場。

読売日本交響楽団 第619回 定期演奏会

2022年 7月22日(金) 19時開演

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

読響チケットWEB

<http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017